

## EDS竹デザイン・プロジェクト

本プロジェクトは、持続可能な社会をつくる担い手となる「造形指導者」の養成を目的としています。「竹」に注目し、それをを用いた構造物（住居・シェルター・オブジェ）・家具・日用品などのプロトタイプを制作します。開発途上国のひとつであり、竹が多く自生するインドネシアを対象に、自立的経済支援、災害復興の支援を中心に取り組んでいきます。



## 自然素材を有効利用する技術

本プロジェクトではEDS加工された竹を使用します。EDSとは、木材に対し特殊な熱と煙の処理を行い、廃材や間伐材を有効材に改良する技術のことです。

EDS加工された木材は反りや曲がり少なく、防虫防腐に優れ、ヤニが出づらくなります。

また、耐久性が増し、加工しやすくなり、小口や節にも釘が打てるほど丈夫になります。

EDS技術は現在、国際連合工業開発機関(UNIDO)が開発途上国への技術移転を進めています。



2005年(3/5-9/25)に開催された日本国際博覧会「愛・地球博」長久手日本館の被膜構造として、EDS加工された竹が採用されました。それは環境保護や持続可能な資源の実践例として21世紀を予感させ、また世界でも類を見ない巨大な竹の構築物(全高19m x 全長90m x 全幅70m)として話題になりました。

